【報告】『第 4 回　のみ SDGs 専門分科会』

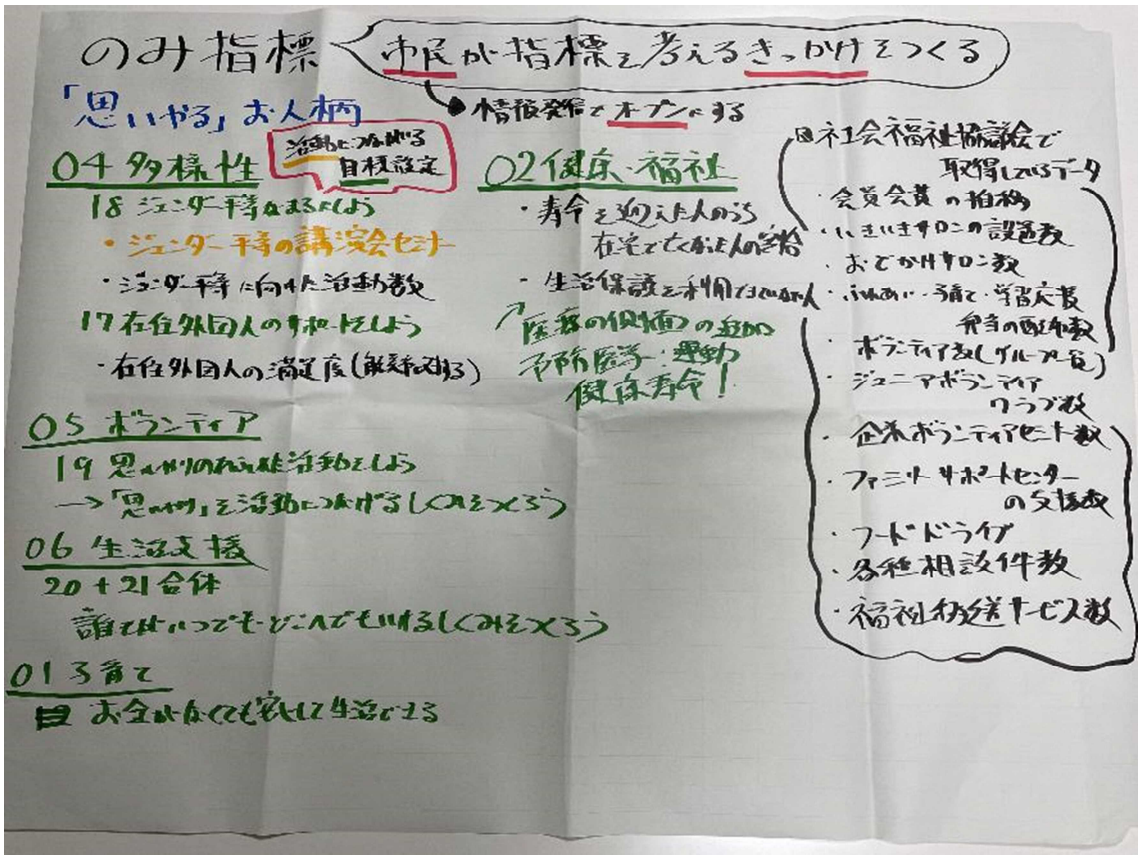
12 月 23 日(木)に第 4 回のみ SDGs 専門分科会を開催しました。
今回は、分科会ごとに分かれて意見交換を行った後、全体で集まり 3 つの分科会で議論した内容について中間報告を行いました。

＜のみ指標分科会＞
のみ指標分科会では、前回までの議論を受けて事務局が作成したのみ指標案を確認しました。
案をもとに、追加で考えられる目標や、変化を測るためにどんなデータが取得できると良いか意見をいただきました。

いただいたアイデアや意見（一部抜粋）
（目標の案について）
・市民の活動につながるように、もう少し具体的な目標の設定が必要だと思う。たとえばボランティアの目標として、【思いやりの溢れた活動をしよう】とあるが、【『思いやり』を活動につなげられる仕組みをつくろう】の方が良いのではないか。
・個人レベルでできることを具体的に盛り込む必要もある。自然・環境の目標にある【二酸化炭素の排出をみんなで抑えよう】については再生可能エネルギーの各家庭での導入を推奨するような方向にできないか。
・医療の側面に言及が少ない。医療へのアクセス、予防医療の観点も合わせて目標のどこかに追加したい。

（データ（案）について）
・アンケート結果をデータにする際、そのアンケートに回答できない人の声を拾う必要もある。たとえば「学校に行くのが楽しいと感じている児童生徒の割合」は、実際に学校に来ている人に聴取したデータあり、不登校の人は回答者に含まれていない。「学校に行くのが楽しくないと感じている児童生徒の割合」を把握するべきだと思う。
・現状の割合だけでなく、目標に向かってどれだけの活動が起こっているか進捗を測るデータが必要である。たとえば「ジェンダー平等なまちにしよう」という目標を測る評価データとして、男女は平等であると感じている人の割合ではなく、ジェンダー平等に向けての活動数を測る。「未来のアスリートを生み出そう」の評価データには、市出

身のスポーツ選手の数ではなく将来のアスリートを生み出すためのスポーツ教室や活動数を測ると良いのではないか。



「見た時に、市民の一人ひとりが自分にできる活動アイデアを具体的に想像できるような指標をつくることが大切」という声が上がるなど、指標が単なる“飾り”になってしまわないよう具体性を持たせることを確認し合いました。

今後いただいた意見をもとに、事務局で修正や加筆を行っていきます。

＜情報発信分科会＞

情報発信分科会では、ホームページと相談窓口の仕様案について最終の確認を行いました。

いただいたアイデアや意見（一部抜粋）

・これまでコンテンツ案を多く出してきたが、ホームページとしては情報を詰め込み過ぎず、地域情報をわかりやすく伝え、活動につなげてもらうことが何より大切。将来的な SNS での情報の補完も見据えつつ、シンプルに整えたい。

・すでに存在する優れた SDGs の啓発コンテンツ（Web サイト、教材、本など）を紹介できるリンク集を設けてはどうか。能美市オリジナルのものでなくても、良いものは活用できると思う。

・当面は SDGs 推進室が相談窓口となるのが現実的。相談の 1 次受付ができる問い合わせフォームやメールアドレスをホームページ内に置けないか。

・相談窓口の設置場所や所轄にこだわるのではなく市内の企業・団体が定期的に交流・相談し合える場を設けることが重要。新しい発見と出会い、課題解決がその場でできると良い。

ホームページの完成イメージを共有しながら、具体的な課題やポイントについて確認ができました。

また、ホームページを持続的に運営するためのアイデアもいただくなど、鮮度の高い情報を更新し続けられる仕組みづくりの重要性も感じました。

＜パートナーシップ制度分科会＞

パートナーシップ制度分科会では、これまでの議論を基にして作成した制度案を委員のみなさんに共有し、案をもとに制度の構造や対象者について引き続き議論しました。

いただいたアイデアや意見（一部抜粋）

・パートナー認証に対するインセンティブは特定の業種にメリットが偏重する可能性がある。認証すべきは企業ではなく登録された企業等の交流で生まれたプロジェクトなのではないか。

・サポーターの対象は能美市在住・能美市拠点でなくとも、能美市の SDG s 普及、拡大に関与する意思のある者であれば広く登録を認めても良いのではないか。

・パートナー登録時は、SDGs の 17 ゴールよりものみ指標をベースとしたチェックリストで申請・審査できる方が良い。

「パートナーシップ制度とは、SDG s の推進に賛同する組織が集まり、創発を促していく仕組みであり、社会課題解決のプロジェクトを生むきっかけとなるもの」とあらためて確認し、登録をゴールとするのではなくその先のプロジェクトまで視野に入れて議論が進みました。

これまでの分科会を経て、具体的な制度ができあがってきました。

＜全体報告会＞

最後に３つの分科会合同で報告会を行いました。事務局担当者からこれまでの議論内容を報告後、各分科会の委員長から総括コメントをいただきました。

今回の分科会では「指標は市民の一人ひとりの活動を促すもの」「情報発信は地域情報をわかりやすく伝え、活動を起こせることが大切」「パートナーシップ制度は市民間の創発を促すもの」とそれぞれ意見をいただきました。

事務局としても、のみ指標、情報発信（HP や相談窓口）、パートナーシップ制度を活用して一人でも多くの市民の皆様が SDGs に親しみ、取り組めるようにすること。その環境づくりが今年度の目的であると再確認できたかと思います。

これまで４回にわたり、市民の視点とそれぞれの経験を踏まえた忌憚のない意見をいただき委員の皆様にあらためて御礼申し上げます。

今後も引き続き、のみ SDGs の推進のため、市民の皆様の活動しやすい環境づくりのため、検討を続けていきます。